

家庭

【生活の営みに係る見方・考え方】

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

家庭 小学校

1 2学年間を見通した題材の指導計画

- ・内容Aから内容Cまでの各項目に相当する授業時数及び各項目の履修学年については、児童や学校、地域の実態等に応じて各学校において適切に定めることができます。
- ・内容A(1)アについては、第4学年までの学習を踏まえ、2学年間の学習の見通しをもたせるために、第5学年の最初に履修させ、内容Aから内容Cの学習と関連を図り指導します。

2 実践的・体験的な活動の充実

- ・実践的・体験的な活動を中心とし、児童が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、児童の実態を踏まえた具体的な活動を位置付けます。
- ・児童の発達の段階や学習のねらいを考慮し、調理、製作等の実習や、観察、実験など、それぞれの特徴を生かした活動を位置付けます。

3 家族・家庭生活についての課題と実践

- ・日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて実践できる態度を養います。
- ・内容A(4)については、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮し、2学年間で1～2つの課題を設定して学習させます。
- ・内容A(2)または(3)、内容B、内容Cで学習した内容との関連を図り、課題を設定します。

家庭分野 中学校

1 3学年間を見通した題材の指導計画

- ・内容Aから内容Cまでの各項目に相当する授業時数及び各項目の履修学年については、生徒や学校、地域の実態等に応じて各学校において適切に定めます。
- ・その際、内容A(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるために、第1学年の最初に履修させます。

2 実践的・体験的な活動の充実

- ・実践的・体験的な活動を中心とし、生徒が学習の中で習得した知識及び技能を生活の場で生かせるよう、生徒の実態を踏まえた具体的な活動を位置付けます。
- ・生徒の発達の段階や学習のねらいを考慮し、調理、製作等の実習や、観察・実験、見学、調査など、それぞれの特徴を生かした適切な活動を位置付けます。

3 生活についての課題と実践

- ・問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどの学習を通して、課題を解決する力と生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養います。
- ・内容A(4)、内容B(7)及び内容C(3)については、これら3項目のうち、1以上を選択し履修させます。
- ・他の内容と関連を図り、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮します。

指導の一層の充実に向けて

- ・指導に当たっては、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりする学習活動を位置付けましょう。
- ・調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意します。また、食物アレルギーについての配慮も慎重に行います。